

令和3年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館ビジョン 2040」における目標達成に向けた2つの基本目標と施策の柱を基本に、令和3年度事業計画に基づく、令和3年度の取組項目及び評価指標を定めました。

■ 令和3年度主要事業取組項目

項 目	取組説明	予算措置
地域情報のデジタル化の推進	地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築し、令和3年3月からデジタル化された資料の公開を開始しており、千葉市史通史編第2巻のデジタル化及び公開するとともに、アーカイブ化計画の作成を行います。 地域で活動している郷土史研究家や教員 OBなどに依頼してモデル的に地域に関する情報収集を実施し、その結果を検証した上で、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討を行います。	3,185 千円 【拡充】
電子書籍の導入	図書館サービスの更なる利便性向上と「Withコロナ」の時代における新しい生活様式に対応するため、電子書籍サービスを提供します。	3,000 千円 【新規】
市民インタビューによる記憶の保存	まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者のインタビュー手法などのノウハウを活用して収集・保存します。	3,000 千円 【拡充】
花見川図書館の改修（こてはし台公民館との複合化）	花見川図書館の空調設備に不具合が発生し、大規模な改修が必要となったことから、施設の長寿命化を図るとともに、効率的な施設運営や市民の皆様の利便性向上のため、老朽化が進んでいる近隣のこてはし台公民館との複合化をするものです。 令和5年度リニューアルオープンに向けて実施設計を行います。	20,000 千円 【新規】
稲毛図書館の空調設備改修工事	老朽化した空調設備の大規模な改修を実施します。 改修期間中は、図書館内に臨時窓口を設置し、予約した資料の受け取り等のサービスを行います。	177,500 千円 (都市局建築部予算)

■ 令和3年度新規事業取組項目

項 目	取組説明	予算措置
新就学児を対象に図書館利用登録の促進	新就学児を対象に図書館利用登録の促進を図るため利用申込書を配布します。	無し
学校レファレンス用カードの配布	図書館資料を市内小・中・特別支援学校で活用するための支援として、「学校レファレンス用カード」を配布します。	無し
学校図書館運営委員会と図書館等との連携	学校図書館運営委員会において、選書や運営に関する情報交換を行う等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携してこどもの読書活動の推進を図ります。	無し
【再掲】 電子書籍の導入	図書館サービスの更なる利便性向上と「Withコロナ」の時代における新しい生活様式に対応するため、電子書籍サービスを提供します。	3,000 千円 【新規】
【再掲】 花見川図書館の台 改修(こてはし公 民館との複合 化)	花見川図書館の空調設備に不具合が発生し、大規模な改修が必要となったことから、施設の長寿命化を図るとともに、効率的な施設運営や市民の皆様の利便性向上のため、老朽化が進んでいる近隣のこてはし台公民館との複合化をするものです。 令和5年度リニューアルオープンに向けて実施設計を行います。	20,000 千円 【新規】

■ 基本目標に対する取組項目

【基本目標 1】特長のある「知の拠点」の実現

■ 令和3年度取組項目

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

(1)「知」のアーカイブ化計画の立案・実行

ア 令和3年1月1日に市制100周年を迎えたが、この大きな節目にあたり、まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者のインタビュー手法などのノウハウを活用して収集・保存します。 (予算:3,000 [千円])

イ アーカイブ化する資料の収集方針や年次目標件数・実施体制などを含めた、未来へつなぐ「知」のアーカイブ化計画の作成を行います。

(2)本市の歴史的文書の整理・保存など

ア 本市の歴史的な資料の整理・保存について引き続き検討します。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
地域行政資料の収集冊数	3,795 冊	現状維持
行政資料の紙媒体の発行点数は減少傾向にありますが、収集・保存方法を工夫することなどにより、現状維持を目指します。		
※千葉市、千葉県に関する資料の年間収集冊数(紙媒体)(公民館図書室での収集を含む) 元年度:3,509 冊 30 年度:3,622 冊 29 年度:3,457 冊		

(3)「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築(「知」の見える化)

ア 地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築し、令和3年3月からデジタル化された資料の公開を開始しています。 (予算:3,025 [千円])

イ アーカイブ化は千葉市史からモデル的に実施し、その結果を検証した上で、博物館等関係機関と協議を進め、資料の選定方針や著作権などの権利処理といった制度の骨格を定め、継続的に取り組んでいきます。

(4)デジタル・アーキビスト等の専門人材の養成

ア 中長期的な視点に立脚した人材育成方針を定め、デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について、計画的に職員の育成を進めるため、必要な資格取得の支援などを行うことを引き続き協議します。

(5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築

ア 市民と協働した「知」の収集体制を引き続き検討します。

イ 地域で活動している郷土史研究家や教員 OB などに依頼してモデル的に地域に関する

情報収集を実施し、その結果を検証した上で、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討を行います。
(予算:160 [千円])

(6)学習成果などの「市民の知」の発表などに対する支援

ア 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について引き続き検討します。

(7)基本的な取組事項

ア 資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
新規登録者数	13,452 人	対前年度比増
転入市民や図書館未利用者への PR の強化等により、対前年度比増を目指します。 ※新たに登録した図書館利用者の数(公民館図書室での登録者を含む) 元年度:18,977 人 30 年度:21,018 人 29 年度:22,378 人		
来館者数	162.7 万人	対前年度比増
未利用者への PR の強化や、魅力ある講座・企画展示の実施等により、対前年度比増を目指します。 ※館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数 元年度:250.5 万人 30 年度:257.7 万人 29 年度:273.8 万人		
年間貸出利用率	市民の 9.0 %	対前年度比増
利用の少ない層への利用促進を図り、対前年度比増を目指します。 ※1 年間に、図書館を利用した市民の割合 元年度:11.4% 30 年度:12.1% 29 年度:12.4%		
年間受入図書資料数	49,429 冊 (うち購入 32,175 冊 寄贈 17,102 冊 その他 152 冊)	現状維持
限られた資料費を有効に活用するため、新しい図書資料を計画的に購入するとともに、寄贈による収集も併せて行い、現状維持を目指します。 ※千葉市図書館が、市民の利用に供するために受入した図書の冊数(購入、寄贈、製作)(公民館図書室での受入を含む) 元年度 56,431 冊(うち購入 35,379 冊 寄贈 20,878 冊 その他 174 冊) 30 年度 56,698 冊(うち購入 35,722 冊 寄贈 20,812 冊 その他 164 冊) 29 年度 53,949 冊(うち購入 34,529 冊 寄贈 19,257 冊 その他 163 冊)		
市民一人当り貸出数 及び総貸出数	一人当たり 3.51 冊 (総貸出数 345 万冊)	対前年度比増
図書館の利用増を図ることなどにより、対前年度比増を目指します。 ※1 年間に市民が借りて利用した資料数(公民館図書室での貸出を含む)を人口で割った冊数及び総貸出数 元年度 4.41 冊(総貸出数 432 万冊) 30 年度 4.58 冊(総貸出数 448 万冊) 29 年度 4.73 冊(総貸出数 462 万冊)		
WEB 予約件数	93.2 万件	対前年度比増

新規登録時や利用更新時のインターネット登録を促進することなどにより、対前年度比増を目指します。

※図書館ホームページからの予約状況

元年度:102.0 万件 30 年度:97.0 万件 29 年度:92.6 万件

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

(1) SNS(Social Networking Service) を活用した知識の交流を促す仕組みの構築

ア SNS を活用した知的な交流の場の設定について今後検討します。

(2) 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供

ア 公衆無線 LAN(Wi-Fi)環境が整った環境を活用し、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備について図書資料整理を進め、施設の改修等にあわせ取組みを推進します。

(3) 市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進

ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
レファレンス受付件数	67,292 件	対前年度比増
サービスの PR を強化することなどにより、市民の一層の利用を促進し、対前年度比増を目指します。 ※市民から、図書館窓口・電話・メールにより、必要な資料について問い合わせを受けた件数 元年度:90,113 件 30 年度:92,124 件 29 年度:92,491 件		

イ 出合いのある図書館利用の促進のため、講座や企画展示などによる情報発信をします。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	13 回 192 人	対前年度比増
市民にとって魅力あるテーマ設定や PR 方法の工夫等により、対前年度比増を目指します。 ※一般市民を対象とした図書館講座等の開催回数及び参加者数 元年度:25 回・843 人 30 年度:23 回・1,136 人 29 年度:26 回・1,014 人		

(4) 生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化

ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。

イ 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。

(5) 基本的な取組事項

ア 図書館の利用を促進するため、地域での広報活動や、各種メディアを活用した広報活動を積極的に実施します。

3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

(1) 計画的なこどもの読書活動の推進

ア こどもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、令和2年度に策定した「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づき取組みを推進します。

(2) こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実

ア こどもの本を知り、本を手渡す術を知るために、必要な研修を実施するとともに、講師として講座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。

(3) こどもの本の充実

ア すべてのこども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数	25.58 冊	対前年度比増
年齢と関心にあった資料の充実・提供や、YA コーナーの充実などにより、対前年度比増を目指します。 ※児童用図書(図書、雑誌、紙芝居)の総貸出冊数(公民館図書室での貸出を含む)を児童数で割った冊数 元年度:31.58 冊 30 年度:32.07 冊 29 年度:32.76 冊		

(4) こどもや保護者を対象とした取組みの充実

ア 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションを図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
おはなし会等の開催回数及び参加者数	241 回 1,805 人	対前年度比増
イベント内容にさらに工夫を加えることなどにより、対前年度比増を目指します。 ※図書館で行うおはなし会、わらべうたと絵本の会等の開催回数及び延べ参加者数 元年度:772 回・9,585 人 30 年度:927 回・19,617 人 29 年度:983 回・21,932 人		

イ こどもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、こどもの読書の意義及び目的を啓発します。

ウ こどもが読書に親しむきっかけを作るとともに、家庭での読書の習慣付けを図るため、「読書手帳」を未就学児(年長児)、小学校 1 年生から 6 年生に配布します。

エ 新就学児を対象に図書館利用登録の促進を図るため利用申込書を配布します。

【新規】

(5)移動図書館車の活用

ア 移動図書館車が学校に訪問することで、こどもたちが学校にしながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。

(6)学校・学校図書館との連携・協力の推進

ア こどもの読書活動を継続的に推進するために、学校と連携し児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、学校への団体貸出や図書館から職員等が学校に出向いておはなし会等を行います。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
学校等関連施設と連携事業を行った回数	151 回	対前年度比増
学校等に対して各種事業を積極的に PR することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数 元年度:449 回 30 年度:469 回 29 年度:551 回		
団体貸出による児童図書の提供数	24,183 冊	対前年度比増
学校、地域・家庭文庫等に対する団体貸出の利用の働きかけを強化することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※団体貸出により千葉市のこどもたちが利用した図書の冊数 元年度:20,909 冊 30 年度:23,367 冊 29 年度:22,577 冊		

イ 図書館資料を市内小・中・特別支援学校で活用するための支援として、「学校レファレンス用カード」を配布します。 【新規】

ウ 学校図書館運営委員会において、選書や運営に関する情報交換を行う等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携してこどもの読書活動の推進を図ります。 【新規】

(7)「千葉市民の知」の学校教育での活用

ア 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について引き続き検討します。

(8)基本的な取組事項

ア 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
地域おはなしボランティア活動 実施回数及び派遣人数	5 回 20 人	対前年度比増
地域おはなしボランティアの活動の場を拡大することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※地域おはなしボランティア活動の実施回数及び延べ派遣人数 元年度:89 回・271 人 30 年度:108 回・294 人 29 年度:211 回・518 人		

イ 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動をすすめるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。

ウ 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われるこどもの読書活動推進にかかわる事業について、連携・協力します。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
連携事業等実施数	9 件	対前年度比増
学校以外の機関等との連携を一層推進することにより、対前年度増を目指します。 ※学校以外の機関(保育所・公民館等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数 元年度:236 件 30 年度:203 件 29 年度:314 件		

エ 図書館業務の体験学習の機会を設けます。また、司書過程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。

オ 図書館が地域の交流の場となるように、子ども読書まつりにおける各種イベントなど、市民の企画・参加による事業を実施します。

【基本目標 2】新たな時代に適応する運営の実現

■ 令和3年度取組項目

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

(1) 利便性の高い場所へのサービスポイントの設置

- ア 利用者の利便性を高めるため、駅前の商業施設などに予約本の受取返却ができるサービスポイントの設置について、令和2年度にサービスポイントとして改修した土気図書室の利用動向等を注視しつつ、施設整備との整合を図りながら引き続き検討します。
- イ 図書館施設が近くにはない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。

(2) 開館日・開館時間の最適化

- ア 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、コロナ禍の新たな生活様式への対応も取り入れながら引き続き検討します。

(3) インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備

- ア 「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
図書館利用に障害のある方への 情報提供	対面音訳件数 0 件 貸出冊数 7,154 点	対前年度比増
DAISY 図書(デジタル録音図書)の作成や、著作権法改正に伴い利用対象が拡大した録音資料の活用を図るとともに、サービスの PR を強化することなどにより、対前年度比増を目指します。		
※対面音訳による情報提供件数、貸出冊数(自宅配本・郵送貸出を含む)		
元年度:対面音訳件数 14 件・貸出冊数 7,414 点 30 年度:対面音訳件数 3 件・貸出冊数 8,836 点		
29 年度:対面音訳件数 13 件・貸出冊数 9,130 点		

- イ 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。

(4) 自動貸出機 などによる貸出サービスのセルフ化

- ア 利用者の利便性を高めるため、ICT を活用したサービスを提供します。(IC タグ、自動貸出・返却機等の導入等)

(5) 情報環境の整備

- ア 利用者の利便性を高めるため、電子書籍や有料データベース等のデジタル情報サービ

スの充実などICTを活用したサービスの提供について引き続き検討します。

(6)電子書籍の整備

ア 図書館に来館することなく自宅などで読書が可能となる電子書籍を導入します。

(予算:3,000 [千円])【新規】

(7)利便性の高い利用認証システムの調査研究

ア 市民が「知の拠点」で提供するサービスを利用するに当たって必要となる利用認証に関しては、認証技術の高度化を踏まえ、利便性の向上に資する方法などについて調査研究を進めます。

(8) 基本的な取組事項

ア 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えとともに、さまざまな危機事案に適切に対応できる体制を整えます。

イ 市民の図書館利用を促進するため、積極的な広報活動を行います。

ウ よりよい図書館運営を図るため、多くの市民のご意見を伺う機会を設けます。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	満足度 93.2% (満足 54.5%・やや満足 38.7%)	現状維持
満足度の達成目標は現状維持としますが、図書館サービスの一層の向上により、満足度の構成割合における「満足」の比率が増加することを目指します。		
※千葉市図書館利用アンケートにおいて、市全体の図書館サービス満足度を、「満足」または「やや満足」と回答した利用者の割合 元年度:満足 53.8%・やや満足 41.1%・計 94.9% 30 年度:満足 53.3%・やや満足 41.3%・計 94.6% 29 年度:満足 52.8%・やや満足 42.3%・計 95.1%		

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

(1)図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成

ア 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	26 回 延べ 146 人	現状維持

研修内容の向上を図りつつ、実施回数及び受講者数は現状維持を目指します。

※千葉市図書館において開催及び千葉市図書館職員(会計年度任用職員含む)が参加した、図書館業務に関する研修回数及び受講者数

元年度:65回(延べ414人) 30年度:85回(延べ397人)

29年度:81回(延べ364人)

(2)中央図書館の機能強化

ア 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について引き続き検討します。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
司書資格を有する職員の割合	54.2% (正規職員 21.6% 会計年度任用職員 98.7%)	対前年度比増
司書資格を有する正規職員の配置を要望することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※千葉市図書館の職員のうち、司書資格を有する職員の割合 元年度:51.9% (正規 20.8% 嘱託 94.8%) 30 年度:55.0% (正規 27.4% 嘱託 94.6%) 29 年度:54.9% (正規 29.0% 嘱託 93.2%) (注) 実績は翌年度 4 月 1 日現在		

(3)地区図書館・地区図書館分館の再編

ア 地区図書館・地区図書館分館の再編について施設の再整備に合わせ検討します。

(4)図書資料等の保存・物流機能の一元化

ア 図書資料の物流機能の拡大や施設価値の最大化のため、図書資料の保管機能と物流機能を一元的に担う新たな拠点を整備することについて、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、具現化に向けて引き続き検討します。

(5)図書館施設の老朽化への対応

ア 「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本方針及び資産の総合評価の結果の見直し方針などを踏まえ、利用ニーズの動向や地域に必要な「知の拠点」としての機能などを整理した上で、学校等との複合化や施設規模のコンパクト化、拠点性のある商業施設への移転の可能性などについて検討を行い、適切に対応します。

イ 花見川図書館を改修すると同時に、同じく老朽化しているこてはし台公民館の機能を図書館の2階に再配置し、複合施設として地域の拠点性を高め、利用者の利便性向上及び複合化の相乗効果による効率的な施設運営を図るため、令和5年度リニューアルオープンに向けて実施設計を行います。 (予算:20,000 [千円])【新規】

ウ 千城台地区学校跡施設利活用検討委員会より提出された回答書及び意見要望書への対応について、全庁的に検討を進めていきます。(若葉図書館の整備)

(6)民間機能の活用

ア サービスポイントとして再整備した施設の運営については、庁内関係部署や関係機関との協議を行った上で、民間機能を活用した運営について慎重に検討します。

(7)運営資金を確保する新たな手法の検討

ア 運営資金の確保に努めるため、引き続き予算対応を行うとともに、寄付金受入や募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した新たな広告事業等による広告料、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について引き続き検討します。

(8)関係機関との連携

ア 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな体験ができる活動の場を増やします。

イ 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などとの協力を推進します。

評価指標	R2 年度実績	R3 年度達成目標
図書館間相互貸借資料数	借受 6,536 冊 貸出 6,888 冊	対前年度比増
他の図書館との協力を一層推進することにより、対前年度増を目指します。 ※他の図書館等との間で、千葉市図書館にない資料を借受した冊数と、千葉市図書館の資料を貸出した冊数 元年度：借受 7,476 冊・貸出 9,378 冊 30 年度：借受 8,414 冊・貸出 9,262 冊 29 年度：借受 7,312 冊・貸出 9,282 冊		

(9)施設名称の検討

ア 市民と「知の拠点」との距離感を縮め、また、「知」の創出への参加意識を醸成するため、すべての市民の「知の拠点」に相応しい名称や愛称などについて検討します。

(10)基本的な取組事項

ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を引き続き登用します。